

# 平成27年度「きのさき見て歩き」第1回開催しました

5月8日（金）雲ひとつない青空のもと、「きのさき見て歩き」第1回「志賀直哉滞在記」を開催し、志賀直哉ゆかりの桑の木や三木屋を見学しました。

城崎庁舎前で『城の崎にて』から志賀直哉が城崎に来たいきさつの場面と『暗夜行路』から城崎の町の様子の描かれた場面を読み出発。

『暗夜行路』には「宿へ着くと彼は飯よりも先ず湯だった。直ぐ前の御所の湯というのに行く」とあり、その御所の湯のあった場所で休憩。講師（坂田文一郎氏）から、志賀直哉来訪当時の町の説明を聞く。



『城の崎にて』で「ヒラヒラヒラヒラ」動いていた桑の木（今は3代目）。ここで『城の崎にて』から桑の木の場面を読む。

大谿川上流の流れ。イモリがでてきたのもこのあたりか。



志賀直哉が滞在した旅館三木屋で若旦那の片岡大介さんより、志賀直哉が初めて城崎に来訪した大正2年当時の三木屋の様子や、創業から北但大震災後今にいたるまでの歴史、志賀直哉とのかかわりなどをお聞きする。志賀直哉が滞在した26号室では、志賀直哉が湯治し愛していたころの城崎温泉の風情（温泉が澄み湯治によく、山の緑、街中の川のせせらぎ、円山川の広々とした流れ、海岸が美しく、日本海の魚がおいしい、人の心が温かく三階建ての木造の建物と調和している）を、町ぐるみで大切にしてくられた思いを聞き、それがあってこそ、今もなお城崎が多くの観光客に愛されているのだと知る。守り継がれてきた故郷城崎の文化、伝統をこれからも大切に、そしてもっと多くの方に伝えていきたい・・・そんな感想が参加者からも寄せられた。